



2025年 10月 1日発行
1952年 5月 13日発刊
毎月 1日 (月刊定価 1部 60円)
(購読料はYMCA会費に含まれています)
公益財団法人名古屋 YMCA
〒464-0848
名古屋市千種区春岡1丁目2番7号
TEL052-757-3331 FAX052-757-3332
●発行人 中村 隆
●編集人 名古屋YMCA広報

YMCA News 10

共に生きる世界の実現を目指して 「間違い」と「違い」

『名古屋YMCAは、キリスト教精神に基づき、すべての人びとに、生涯にわたる学習の場と、社会参加の機会を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指します。』

今更ですが、名古屋YMCAはこの『名古屋YMCAの使命』のもと、幼児教育・野外活動・日本語学校など様々なプログラムを開催しています。今現在、私個人も様々な活動に携わるにあたって、この『名古屋YMCAの使命』が大きな指針になっていることを強く感じています。特に、『相互の交わりと連帯を通して』というところは、常に意識をしているところです。何故ならば、私たちを取りまく日本社会が分裂と分断を繰り返す状況が続いていると感じるからです。「勝ち組vs負け組」、「既得権益者vs非既得権益者」、こどもたちの世界である学校に至っても「スクールカースト」など例を挙げたらキリがないくらいです。自分の優位性を基準に他者を抑圧し、支配する。上下の関係を作ることによって、自らの存在意義を確認しているのです。いわゆる“いじめ”的構造と言えるでしょう。また近年毎日のように行われているヘイトスピーチも分断と分裂を促す行動の象徴だと思います。ヘイトスピーチについては国連で、『ある個人や集団について、その人が何者であるか、すなわち宗教・民族・国籍・人種・肌の色・血統・ジェンダーまたは他のアイデンティティ要素を基に、それらを攻撃する、または軽蔑的もしくは差別的な言葉を使用する、発話・文章または行動上のあらゆる種類のコミュニケーション』と定義されています。私も在日韓国人という属性から近年特にこのヘイトスピーチには心を痛めています。「〇〇がいるから社会が良くならない」「〇〇たちが特権を持っているから私たちが不幸だ」など、敵を作ることで自らを正当化しよ

うとしているのです。その対象の人たちがどんなに苦しみ、悲しむかはお構いなしに。

近年この行動や思考は、民間の活動に留まらず、政治の場でも顕著に現れてきていると感じています。「外国人が生活保護を悪用している」「外国人が増えたせいで、日本人の仕事が激減している」などをはじめとする事実に元付かない情報を含めて発信することにより注目を集め、自分たちの主張に都合の悪い情報や出来事には、陰謀論だと主張することで独自性をアピールしています。敵を作ることで不安や不満が解消されるのか、または陰謀論等による知的好奇心が満足されるのかもしれません。このような主張を持つ政党や政治家が多く支持を得ているのが今の社会現象です。SNSの発達と同時に多くのデマを含む色々な情報がすぐに拡散されてしまう社会構造や私たちの情報リテラシーなど様々な問題や課題はあるにせよ、これらの行動や発言の根底は、分裂と分断を前提としているのです。平たく言い換えると自分と他者の間に、間(壁)を作り、その「違い」を表現・指摘することで自らを正当化しようとしているのです。つまり他者の「間違い」を攻撃することで自分を正当化するのです。言い換えれば、他者や敵を作ることができなければ、自らの正当性や存在意義を確認できないということになります。果たしてこんな寂しい社会でいいのでしょうか?

この社会に住む多くの人々が、敵を作つて得られる存在意義ではなく、『相互の交わりと連帯を通して』得られる存在意義を持って喜びとする社会が必要なのではないでしょうか。そのためにも我々1人ひとりが、自分と他者との関係に「間」を作つて「間違い」を主張するのではなく、「間」を取り除いて「違い」を認め合う行動が大切なではないかと考えています。それこそが、『共に生きる世界の実現を目指す』ということではないでしょうか。

名古屋YMCA評議員 金 智重



第12回 名古屋YMCA大会 スピーチ

利他の心でつながる世界



下村 徹嗣

私は今年83歳になります。35年間のサラリーマン生活を経て、60歳からは牧師として13年間奉仕し、今はキリスト教会や関連団体に関わる奉仕活動を続けています。

YMCAとの関わりは、今からおよそ30年前に始まりました。当時、理事長だった野村さんから声をかけていただいたことがきっかけです。その後、評議員、理事、監事などを務め、今は維持会員として早天祈祷会に出席しています。

私が社会に出たのは1965年のことです。日本国有鉄道、いわゆる国鉄に入社しました。前年には東京オリンピックが開かれ、東海道新幹線も開通し、日本中が希望に満ちていた時代でした。しかし現実には、国

鉄はすでに大きな赤字を抱えていて、労使関係も複雑になり、やがて経営が行き詰まり、分割民営化へと進んでいきました。私はその渦中で、労働組合との交渉を担当する部署に勤務していました。団体交渉や職場の巡回指導の場では、怒声を浴びたり、冷たい視線を向けられたりすることもありました。同じ職場で働く者同士が、ここまで対立し、憎しみ合わなければならないのかと、強い悲しみと恐れを感じたことを覚えています。

こうした経験を通して、私は1985年のクリスマスにキリスト教の洗礼を受けました。人は時に、互いに敵対し、傷つけ合うことがあります。しかし、83年生きてきて私が今確信しているのは、「人と人が理解し合い、利他の心を持って、互いに愛し合うことの大切さ」です。それが、今の私の生きる目標であり、人生を通じて学んだ最も大切なことです。

働く意味は子どもたちの成長の中に



福原 汐音

私は10年前に名古屋YMCAでリーダー活動を始め、大学卒業後も評議員として関わりながら、現在は小学校教員として働いています。今年で社会人6年目です。

これまで1年生から6年生、そして特別支援学級まで、多くの子どもたちと向き合ってきました。入学したばかりの1年生の中には、教室に入れず毎朝下駄箱で泣いていた子もいました。しかし、少しずつ学校に慣れ、初めて給食を完食した日に「せんせい、できたよ!」と笑顔で伝えてくれた姿は今も忘れられません。高学年では、反抗期で本音を隠す子どもたちとぶつか

り合うこともあります。ある日、真剣に叱った後に「先生、話を聞いてくれてありがとう」と言われました。その言葉に、信頼関係は厳しさの先にも築けるのだと気づかされました。また特別支援学級の4年生の男の子が、何年もかけて「 $5+4=9$ 」を自分の力で解けるようになった瞬間の喜びは、他にはかえられません。小さな一歩が、大きな成長の証なのです。

働く意味とは「誰かの未来を支えること」だと考えています。子どもたちの中にある可能性という「種」に気づき、「できた」という芽を育てるこそこそ、教員の使命です。やがてその芽が子どもたち自身の力で花開く日を信じて、これからも一人ひとりの成長に寄り添い続けたいと思います。

新採用職員紹介



南山ファミリーYMCA 和田 夕里奈

9月より南山ファミリーYMCAにて務めさせていただくこととなりました。

今まで水泳の先生をしており、チャレンジする姿勢や、子どもの様々な感情や、成長していく姿を楽しく見守ってきました。

体操の指導においても、いち早くお力になれるよう、子どもたちの成長をサポートできるよう努めてまいります。

また、自分の趣味でもある、野外活動にも携わらせていただきます。日常生活ではできない体験・経験を経て、大きく成長してもらえるよう頑張ります。よろしくお願いします。

イベント告知

南山バザー

南山幼稚園と南山ファミリーYMCA共催で行う南山バザーは、毎年大勢の人たちで賑わいます。地域の方々はもちろん、卒園児やその保護者、YMCAの元スタッフなども訪れ、なつかしい再会の場ともなっています。模擬店、ゲーム、お買い物…子どもも大人も楽しめる南山バザーへ、みなさんぜひお越しください。



【日 時】 2025年10月26日(日) 10:00~14:00

【場 所】 南山幼稚園

チャリティーゴルフ

第32回チャリティーゴルフ2025を開催いたします。毎年の恒例行事としてスケジュールに丸をつけてくださっている方も、ゴルフを始めたての方も、初めて参加される方も楽しめるイベントです。



参加費は、「貧困児童対策の学童キャンプ」「東日本大震災復興」「留学生」への支援として寄付いたします。ぜひご参加お待ちしております。詳細や申込については同封のチラシをご覧ください。

【日 程】 2025年11月13日(木)

【場 所】 鈴鹿カントリークラブ

総主事コラム

イチイ(一位)の木

岐阜県の県木であるイチイの木。岐阜県高山市高根村に位置する日和田高原キャンプ場では、1983年の開設時にキャンプ場の入り口とメインロッジの前に数本のイチイの木が植えされました。イチイの木は日陰を好む成長の遅い木で、材質が良く、岐阜県飛騨地方で作られている一位一刀彫(いちいいとうぼり)の原木となります。一位一刀彫の特徴は、飛騨の銘木の中でも樹齢400年から500年を経た貴重な木材を利用することで、内側の赤っぽい「赤太」と、外側の白っぽい「白太」の二色の部分の絶妙な色合いが作品に個性を出しています。キャンプ場に植えられたイチイの木は樹齢40年。まだまだ幼子のレベルです。

数年前、隣の木と干渉し合い、窮屈そうにしていたイチイの木の様子にようやく気づき、密接していたイチイの木の間伐を行いました。30年ぶりに成長する空間を与

えられたイチイの木は命を吹き返し、枝葉を横に広げ大きく成長しましたが、太い一本の幹ではなく細い幹が重なり合って枝葉を支えています。一方、広い空間に一本だけ植えられていたイチイの木は、太い幹を持ち、他のどの木よりも大きく成長しています。秋になると真っ赤な実をつけるイチイの木。果肉(仮種皮)は食べることができます、種(種子)は猛毒で数粒食べると死に至ると言われています。鮮やかな赤い実は鳥たちに餌として提供されますが、鳥たちによって遠くへ運ばれ、蒔かれる種となる大自然の摂理にはいつも驚かされます。

キャンプ場のメインロッジの前に椅子を置き、じっと目の前の風景を眺めていると、樹木の声や風の彩り、空の青さや虫の音色など見えないものが見えるような気がします。キャンプ場の入り口にあるイチイの木は、他の樹木に囲まれて青色吐息。ようやく、一日かけて下草を刈り、枝打ちを行ったので、次に会える日が楽しみです。

(中村 隆)

日本語学校

8月29日、文化祭を実施しました。授業内予選を勝ち抜いた学生によるスピーチ大会をはじめ、有志発表、ファッショショーンショー、腕立て伏せ大会など多彩な内容で、大いに盛り上りました。本番に向けて司会やスピーチ、ダンスなどの練習を重ね、学生自らの力で創り上げていく姿に、私自身も大きな活力をもらいました。当日は、普段なかなか接する機会の少ないチーターさんや理事長、他クラスの学生とも生き生きと交流する様子が見られ、笑顔あふれる一日となりました。文化祭を通して学生の成長と結束を実感することができました。

(青木 咲紀野)



こひつじ保育室

こひつじ保育室では、2024年度より英語クラスを始めました。昨年は緊張して涙を見せることがあった子どもたちも、現在は2歳児クラスに成長し、楽しむ姿が見られるようになりました。

また7月と9月には、新しいお友だちを迎えるました。初めての環境や雰囲気に戸惑う子もいましたが、日々の関わりを通して少しずつ園での生活に慣れ、仲間と一緒に過ごす楽しさを感じ始めています。夏には、水遊びを中心に氷や泡、チカラルーン等を使った様々な感触遊びを存分に楽しみました。これから迎える秋は、心地よい気候のもと、自然にたくさん触れながら過ごしていきたいと思います。 (保育士 古賀千尋)



維持会員感謝・ご寄付感謝

維持会員(継続)

近藤よし恵	船戸 章	阿部 一雄	信田伊知郎	高田 士嗣	服部 庄三	早川 政人	松原 行謙
中條 秀和	黒柳 麻琴	牛田賢一郎	春日 裕忠	藤田 瑞美	荒川 恭次	荒川 恒子	水谷 克巳
水谷 里美	小尾 雅彦	小尾 昌代	荒川 文門	吉川 裕子	榎田 勝利		

寄付金・募金

(学童キャンプ)

中井 信幸	加藤 明宏	吉田 一誠	荒川 恭次	中条 秀和	松井 克己	坂口 公美	林 敦子
多湖みづほ	渡辺 真悟	ヨネミセイジ					

(こひつじ保育園10周年記念募金)

山口 幸子	相馬 静香	野村 靖子	牧野 和博				
(チャリティーラン)							
義井 裕子	三木まゆみ	尾國 尚二	近藤産興株式会社				

早天祈祷会

日時 10月7日(火) 7:45~8:30

会場 名古屋YMCA 5階チャペル

奨励 日本キリスト教団名古屋教会

田口博之先生

お問い合わせ

名古屋YMCA	052-757-3331
YMCAこひつじ保育室	052-757-5530
南山ファミリーYMCA	052-831-6968
南山幼稚園	052-831-8271
神沢ファミリーYMCA	052-879-6300
YMCAかみさわ保育園	052-879-6222
名古屋YMCA日本語学院	052-531-0077
発達サポートYMCAかみさわ	052-879-6300
かりやYMCA保育園	0566-62-8227



<https://nagoyaymca.org>

名古屋YMCA 使命

「名古屋YMCAは、キリスト教精神に基づき、すべての人びとに、生涯にわたる学習の場と、社会参加の機会を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指します。」

2025年度聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。(ローマの信徒への手紙12章15節)